

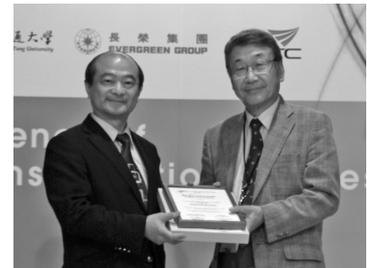
アチャリエ・スルヤ・ラージ運輸政策研究所前主任研究員と森地茂運輸政策研究所前所長の共同著作論文が、アジア交通学会国際会議(EASTS)において『Best Paper Award』を受賞

2013年9月11日、台湾、台北市で開催された第10回アジア交通学会国際会議において、アチャリエ・スルヤ・ラージ運輸政策研究所前主任研究員(現研究アドバイザー)と森地茂運輸政策研究所前所長(現研究アドバイザー)の共同著作論文が『Best Paper Award for Difficult Research Accumulations』を受賞しました。

今回受賞した論文は、運輸政策研究所の「アジア諸国における都市間交通システムに関する国際共同研究」の成果をまとめた「Introducing High Speed Rail (HSR) System in Developing Asia: Issues and Prospects(発展途上のアジアにおける高速鉄道システムの導入：課題と展望)」です。

受賞時の講評では、特に①豊富に積み重ねられた著者らの経験を反映、②先進国の経験を踏まえて発展途上のアジア7か国における高速鉄道の競争性を総合的かつ定量的に分析、③現在進行中の政策論議の主要な要素を明確化、という3点が評価されました。

Difficult Research Accumulations部門では、Best Paper Awardが部門ごとに授与されることとなった第8回アジア交通学会国際会議(2009年)以来、受賞対象論文がなかったため、同論文が初めての受賞論文となりました。



森田泰智前研究員、森地茂前所長、伊東誠主席研究員の共同著作論文が、世界交通学会(WCTR)において、『WCTR 2013 Poster Recognition』を受賞

2013年7月15～18日、ブラジル、リオデジャネイロ市で開催された第13回世界交通学会(WCTR)国際会議において、森田泰智運輸政策研究所前研究員(現鉄道・運輸機構)、森地茂運輸政策研究所前所長(現研究アドバイザー)、伊東誠運輸政策研究所前主席研究員(現運輸政策研究機構主席研究員)の共同著作論文が、ポスターセッションTopic Area G: Planning, Policy and Management(計画・政策・経営領域)において、有意義な洞察を発揮したものと認められ、『WCTR 2013 Poster Recognition』を受賞しました。

受賞論文は、「A Study on Coordination between Urban Development and Station Capacity(都市開発と駅の処理能力との整合性に関する研究)」で、近年、東京の都心駅周辺で急速に都市開発が進展し、これにより、鉄道駅で激しい混雑が見られるようになった問題を踏まえ、駅施設が許容できる交通量(最大捌け人数と定義される)の提案や、駅の激しい混雑を防ぐための改善方策のあり方について提言をしています。



本誌掲載論文が『2013年度 日本交通学会賞(論文の部)』を受賞

2013年1月29日発行の機関誌「運輸政策研究」Vol.15 No.4に掲載された朝日亮太(元神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程、現福山平成大学講師)の学術研究論文「米国航空産業における合併効果と低費用航空会社の運賃設定行動—デルタ航空・ノースウエスト航空のケース—」が『2013年度 日本交通学会賞(論文の部)』を受賞しました。

講演会等の開催(開催日順)

◆第45回運輸政策セミナー

日時……平成25年10月11日(金)

18:00~20:00

会場……当機構2階会議室

テーマ……「災害時における多様な航空機活動を支える空港運用のあり方に関する研究—東日本大震災の空港利用実態調査を踏まえて—」

講師……研究グループ(災害時の空港運用)

日本大学教授

轟 朝幸

当機構運輸政策研究所研究員

荒谷太郎

当機構運輸政策研究所非常勤研究員, 茨城大学准教授

平田輝満

関西外国語大学教授

引頭雄一

東京工業大学大学院准教授

花岡伸也

宇都宮大学大学院助教

長田哲平

会場……ヒルトン大阪:「桜の間」

開会挨拶……(公財)関西交通経済研究センター会長

野村明雄

概要説明……当機構国際問題研究所長

鷲頭 誠

講演……1. グーグル ディレクター(安全性・自動運転自動車担当)

ロナルド・メッドフォード

「なぜ私たちは自動運転自動車が必要なのか?」

2. トヨタ自動車(株)制御システム先行開発部第3制御システム先行開発室長;IT・ITS企画部主査

金光寛幸

「高度運転支援システムのための車の自動化技術」

3. マサチューセッツ工科大学研究員

ブライアン・リーマー

「自動運転自動車への道筋:ヒトの能力と先進自動車システムの間の断絶?」

※ビデオでのプレゼンテーション

4. スタンフォード大ロースクール フェロー

ブライアント・ウォーカー・スミス

「自動車の自動運転化の法的・社会的インパクト」

パネルディスカッション

モデレーター……A.T.カーニー(株)パートナー

川原英司

パネリスト……国土交通省自動車局技術政策課技術企画室長

久保田秀暢

上記講師(3名)

◆国際セミナー「自動運転への取り組み〜ヒト・自動車交通・社会にとつてのチャレンジと課題〜」

主催……(公財)関西交通経済研究センター

(一財)運輸政策研究機構国際問題研究所(JITI)

日時……平成25年10月21日(月)

14:00~17:50

講演会等の開催予定

◆国際問題研究所「航空セミナー」

日時……平成25年11月8日(金)

18:30~20:30

会場……航空会館7階大ホール

テーマ……「アメリカ航空産業の現状と今後の展望〜米国航空市場におけるLCCの発展と空港へのインパクト〜」

研究報告……当機構国際問題研究所在ワシントン研究室研究員

川端達史

パネルディスカッション

モデレーター……一橋大学大学院商学研究科教授

山内弘隆

パネリスト……神戸大学大学院経営学研究科教授

村上英樹

東京工業大学大学院理工学研究科国際開発工学専攻准教授

花岡伸也

当機構国際問題研究所在ワシントン研究室研究員

川端達史

会場……海運クラブ国際会議場(千代田区平河町)

特別講演……法政大学デザイン工学部教授

陣内秀信

「東京の水都としての形成史」

研究報告……1. 当機構運輸政策研究所研究員

栗原 剛

「インバウンド観光が地方にもたらす効果に関する研究」

2. 当機構運輸政策研究所主任研究員

根木貴史

「東アジアの産業構造の変化を踏まえたロジスティクス機能に関する研究」

3. 当機構運輸政策研究所研究員

渡邊 徹

「わが国地方部におけるモビリティの確保のあり方に関する研究—確保すべきモビリティ水準とその実現可能性を中心に—」

4. 当機構運輸政策研究所研究員

呉 玲玲

「東日本大震災後のインバウンド観光に関する研究」

5. 当機構運輸政策研究所研究員

嶋本宏征

「貨物トラック事故の人的要因に関する考察」

◆研究報告会2013年秋(第34回)

日時……平成25年11月26日(火)

13:00~18:00